

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	本学と賀茂1市5町地域連携協定に基づく同地域の観光に関する基礎的研究				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	八木 健祥
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	大久保 あかね
		所属・職名	経営情報学部・特任教授	氏名	北上 真一
		所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	カウクルアムアン アムナー
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	八木 健祥

講演題目	静岡県賀茂地域への若年層誘客に関する考察
------	----------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

(研究目的)

○ 静岡県伊豆半島の南半分を占める賀茂地域では2000年前後は年間約400万人の宿泊客であったが、コロナ前の2019年の宿泊客数は240万人、コロナ禍の2021年は140万人と、20年前と比べ6割以上減少している。こうした背景として、賀茂地域のトップシーズンである夏の海水浴客が2000年前後は約130万人であったものが、2019年には約60万人と半減していることが大きく影響している。海水浴客の大半は若年層(10~30代)であるので、賀茂地域にとって若年層観光客をいかに誘客するかが観光回復の課題となると考え、本研究に着手した。

(研究方法)

○ Web調査により、首都圏1都4県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県)の20~30代男女3000名を対象に伊豆半島への旅行実績、旅行目的地、旅行目的、満足度等について確認し、その結果を統計分析を用いて研究するとともに、現地観光事業者、観光協会、行政等へのヒアリングや現地調査を通じ裏付けを行った。

(研究成果)

○ 首都圏在住若年層の伊豆半島への旅行実績はコロナ前でも年々減少し、他の観光地に客を奪われていることが判明するとともに、伊豆半島内でも熱海から南下するにしたがって来訪者が先細りしていくことを確認した。こうした背景には割高な交通費に見合う観光資源の情報が首都圏消費者に届いていないことも一因であることも判明した。一方、実際に賀茂地域に来訪した客の満足度は非常に高く、リピーターに繋がっていることも認められた。以上のことから、費用面がネックとなる初回のハードルを容易に越えられるような仕掛けを用意すれば若年層の来訪者は増えることが予測され、その仕掛けとして「スタディトリップ」を提言した。すなわち、旅費を学校もしくは保護者が負担する形で研修旅行やフィールドワーク、ゼミ合宿の形で若年層の賀茂地域への誘客を図るものである。そこで将来のリピーターを創出していけば良いと考えた。

(今後の課題)

○ 本提案は来年度より実際に静岡県賀茂地域局が中心に費用負担の在り方や受け入れ先の確保など試行的に実施していくこととなった。トライアルな形であるがその結果等をトレースし、新たな誘客策の1つとして地域に根付かせることで地域振興に寄与させていくこととしたい。